

総合的な学習の時間における SDGs 学習の研究テーマ設定と 教師のサステナビリティ・コンピテンシー

女子栄養大学教授 井元 りえ

1. はじめに

SDGs (Sustainable Development Goals, 持続可能な開発目標) を目指した取り組みが 2016 年 1 月 1 日から開始され、丸 4 年余りが経過した。この間、各セクターにおいて様々な取り組みが行われてきた。

SDGs では、目標 4 のターゲット 4.7 に ESD (Education for Sustainable Development) が明記され、SDGs 全体を推進するための教育として位置付けられている。文部科学省では、日本ユネスコ国内委員会に「持続可能な開発目標 (SDGs) 推進特別分科会」を設けて取り組みを行い、学校教育をはじめ、家庭、職場、地域等のあらゆる場における SDGs に関する学習を奨励していくことが重要であるとしている。

学校における ESD は、国連 ESD の 10 年 (2005 年～2014 年) を受けて、学習指導要領に「持続可能な社会の構築」が、教育振興基本計画に「ESD の推進」が盛り込まれた。また、SDGs を受けて、2020 年 6 月のユネスコの会議 (於：ベルリン) では、ESD for 2030 が開始される予定となっている。

このようななかで、学校教育においても各教科や総合的な学習の時間等で多くの SDGs に関する授業実践が行われてきている。

そこで、本稿では、総合的な学習の時間における SDGs の学習についてこれまでの授業実践の動向を振り返り、今後の授業実践のさらなる発展の方法について考察する。

2. 総合的な学習の時間における SDGs の授業実践の動向

CiNii によって「総合的な学習」and「SDGs」で文献検索したなかで、総合的な学習の時間における SDGs の意義についての研究と授業実践報告について振り返る。

滋野 (2019) は、SDGs が今回の学習指導要領改訂の大きな軸となっていると指摘している。持続可能な社会を実現することは、学習指導要領の前文にもある通り、21 世紀の教育が担うべき使命であり責任であると述べ、特に、高等学校では「総合的な探求の時間」におけるテーマとして SDGs はとても適切であるとしている¹⁾。

小川 (2018) および梶木 (2018) は、高等学校 1 年生の総合的な学習の時間 (年間 30 回) における探求的な学習について報告している^{2), 3)}。ユネスコスクールとして長年にわたり実践してきた ESD を基に、2017 年度に初めて「SDGs の 17 の目標」を学習内容に加えている。また、2017 年度は「国際バカロレアの考え方 (特に『知の理論』)」と生徒一人ひとりの「探求活動」をより積極的に取り入れている。学習内容としては、1 年生の 1 学期に、「環境」「貿易ゲーム」「ジェンダー」「エネルギー」「ゴミ問題」「紛争」「文化」「人権」という 8 つのテーマで 8 人の教員の授業から基本的知識を学び、夏休みには ESD に関わる新書を 1 冊読み、9 月にはグループ活動によって内容を読み深めている。さらに、10 月には SDGs の 17 の目標の中から生徒一人ひとりにいずれかを選ばせ、同じ目標を選んだ生徒同士で 3～5 人のグループをつくらせ、グループで相談して「問い」(研究テーマ) をたてさせてい

る。そして、グループ探求活動を行い、途中の11月で中間発表、1月に本発表をさせている。その後は、個人研究となり、SDGsを意識した個人研究レポートをまとめさせている。

総合的な学習の時間において、研究テーマの設定は核となる学習活動である。その際に生徒に問題意識を持たせるためにどのような情報源の提供ができるだろうか。また、その際に指導する教師が持つべきコンピテンシーとはどのようなものであろうか。

3. 世界と日本の SDGs の達成度からみた研究テーマの設定

生徒が研究テーマをたてる際に「世界と日本の SDGs の達成度」を認識した上で考えを進めることも1つの方法であろう。「世界の国々の SDGs の達成度」は、ドイツのベルテルスマン財団と持続可能な開発ソリューションズ・ネットワーク (SDSN) が共同で毎年発表している⁴⁾。17の目標のそれぞれに数件の評価項目を設定し、各種統計を基に評価している。

2019年の報告書は、すべての目標の達成に向けて順調に進んでいる国はないとし、ランキング上位の国でさえも目標12「つくる責任つかう責任」、目標13「気候変動」、目標14「海洋資源」、目標15「陸上資源」については取り組みが遅れていると指摘している。

日本のランキングは162カ国中15位であった。17の目標の中で、達成の度合いがかなり低い「最大の課題」とされたのは、5「ジェンダー」、12「つくる責任つかう責任」、13「気候変動」、17「実施手段」であり、達成の度合いが低い「重要課題」とされたのは、2「飢餓」、7「エネルギー」、10「不平等」、11「まちづくり」、14「海洋資源」、15「陸上資源」であった。

例えば、5「ジェンダー」の評価項目では、「国会における女性議員の割合」が10.1%、「男女の賃金格差(男性の平均賃金にあたる%)」が24.5%、「女性の1日当たりの無償労働の時間」が183.5分となっている。これらを基に、社会や家庭における男女共同参画について研究テーマを設定することができるだろう。

また、12「つくる責任つかう責任」の評価項目では、「電気電子機器廃棄物(E-waste)量」(古いパソコンや携帯電話などの廃棄)が1人当たり16.9kg、「輸入された二酸化硫黄排出量」が1人当たり12.1kg、「窒素生産フットプリント」が1人当たり36.4kg、「反応性窒素の純輸入排出量」が1人当たり259.9kgといずれも多い。これらを基に、食料・飼料・製品の輸入に伴う責任や多くの製品やサービスを消費する責任について研究テーマを設定することができるだろう。

さらに、13「気候変動」の評価項目では、「エネルギー関連のCO₂排出量」が1人当たり8.9トン、「車両以外の機器に使われるエネルギーから出る実効炭素率」がCO₂1トン当たり7.8ユーロ、「気候関連の災害を受けた人の数」が10万人当たり142.8人となっている。これらを基に、CO₂排出量の削減のための対策や防災などについて研究テーマを設定することができるだろう。

そして、17「実施手段」の評価項目では、「公的開発援助を含む国際譲許的財政」が国民総所得の0.2%、「金融秘密度指数」(最高0・最低100)が60.5となっている。日本からの開発途上国に対する援助のあり方について研究テーマを設定することができるだろう。

なお、以下のSDGsの画期的な特徴を忘れてはならない。

- 1) すべての目標とターゲットは互いに不可分の関係にあり、統合的に捉えること

2) 歴史上初めて政治の役割について言及していること (目標 16)

すなわち、17 の目標と 169 のターゲットを統合的に捉え、様々に関わっていることを意識する必要がある。

4. 持続可能な社会に導くための教師のコンピテンシー

SDGs の学習において教師が持つべき「持続可能な社会に導くための能力とは何か」という根幹的な課題がある。その手掛かりの 1 つとして、「サステナビリティ・コンピテンシー」(表 1) を提示しているオープン教材がある。これは、ProfESus.eu というプロジェクトグループが、家政学分野において、生態学的、経済的、社会的な持続可能性を改善する

表1. 職業訓練の学習者またはゲスト指向の学習の専門家のためのサステナビリティ・コンピテンシー

(2011年国連欧州経済委員会から改編)

	全体的アプローチ：統合的思考と実践	変化の構想：過去、現在、未来	変革の実現：個人的人間開発と学習環境
知ることを学ぶ (専門家は右に示すことを理解している)	1. 体系的思考プロセスの基本	7. 持続不可能な開発の根本原因を理解し、ストーリーでそれを説明できる	13. そして、持続可能性をサポートするために作業の文脈を変革することができる
	2. 自然、社会、経済システムが機能する方法の相互関係	8. そして、持続可能な開発のために進化するコンセプトを作ることができる	14. そして、私たちの仕事や専門的な開発方法を変えることができる
	3. 世代間の自然に対する責任と、金持ちと貧乏人の間、および人間と自然の間の自然に対する責任	9. そして、持続不可能な慣行から、生活の質、公平性、連帯、環境の持続可能性の向上に向けた職業的状況変化の緊急の必要性に対応することができる	15. 同僚や利害関係者をサポートして、新しい課題に対応できる
	4. 彼/彼女の個人的な世界観と文化的な考え方、他の人のそれらを理解しようとする	10. そして、将来を計画し、変化をもたらす際の問題設定、批判的考察、ビジョン、創造的思考の重要性を目的とするタスクを遂行できる	16. 同僚や関係者の経験への関与を示す変革の基礎としての経験に基づいて構築することができる
	5. 持続可能な未来と私たちの考え方、生き方、働き方との関係	11. 予期せぬ事態に備え、予防的アプローチを追求できる	17. 現実世界の問題への関与が、どのくらい専門能力の開発を強化し、専門家が実践に変化をもたらすのを助けるかを知っている
	6. 持続可能な開発に関連する彼/彼女自身の持続可能な思考と行動	12. そして、持続可能な開発を支援する科学的証拠の重要性を考慮することができる	
行動を学ぶ (専門家は右に示すことができる)	18. 偏見や先入観なしに、異なる分野/場所/文化/世代からのアイデアや経験を共有する機会を作る	21. 社会の変化のプロセスを批判的に整理し、持続可能な未来を構想する	25. 仕事および/またはその先で批判的思考と積極的なシティズンシップを開発するような、労働者とユーザー中心のサステナビリティ・イニシアチブで、参加型にする
	19. さまざまなジレンマ、問題、緊張、対立に関する視点で学ぶ	22. 変化に対する切迫感を伝え、希望を呼び起こし、さまざまな決定と行動の潜在的な結果の評価を促進する	26. 持続可能な開発に関連する変化と成果の結果を評価する
	20. 仕事とビジネスを彼女/彼のローカルおよびグローバルな影響とつなぐ	24. 自身が働く組織を含む自然、社会、および人工環境を、専門能力開発の環境およびソースとして使用する	
共に生きることを学ぶ (専門家は他の人と一緒に右に示すような方法で行う)	27. 世代、文化、場所、分野の異なるグループでのコラボレーションを積極的にサポートする	28. 持続可能な開発に取り組む新しい世界観の出現を促進する	30. 職場環境で持続不可能な慣行に挑戦する
		29. 代替の未来の交渉を奨励する	31. 職場の同僚やゲストが対話を通じて自分自身や他の人の世界観を明確にし、代替の枠組みが存在することを認識するのを支援する
~であることを学ぶ (専門家は右に示すような人である)	32. 先住民の知識や世界観など、さまざまな専門分野、文化、視点が含まれている	33. 他の人々と彼らの社会的および自然環境に、ローカルおよびグローバルに積極的に貢献するような動機付けがある	35. 持続不可能な慣行の根底にある仮説に挑戦する意思がある
		34. 不確実な状況でも考慮して行動をとる意思がある	36. 自身の仕事のプロセスの進行役および参加者になることができる
			37. 批判的に省察する実践者になることができる
			38. 創造性と革新を鼓舞することができる
			39. 前向きな関係を築く方法で仕事や同僚と関わるることができる

(出典) ProfESus.eu (<https://profesus.eu/course/module-3/>)

(注) 著者が訳出。23番が無いが、原文通りである。

ために学習者や専門家を教育する方法について、教師・教育者を訓練するための学習コース（200 時間）を作成したものである⁵⁾。2019 年 3 月に web に掲載された「未来志向のライフスタイルのための持続可能な考え方を発見する」というテーマのオープン教材は、モジュール 1～4 までである。表 1 に示す「職業訓練の学習者またはゲスト志向の仕事の専門家のためのサステナビリティ・コンピテンシー」は、モジュール 3 の学習活動計画に含まれているものである。

まず、縦軸には、「知ることを学ぶ」、「行動を学ぶ」、「共に生きることを学ぶ」、「～であることを学ぶ」という 4 つの内容があり、横軸には「全体的アプローチ：統合的思考と実践」、「変化の構想：過去、現在、未来」、「変革の実現：個人的人間開発と学習環境」という 3 つの視点があり、その交差する中に 1～39 のコンピテンシーが示されている。学習計画を立てる際に、これらのコンピテンシーの中のいくつかを意識していくことで持続可能性の視点が授業の中で明確化できると考えられる。

5. まとめ

本稿では、総合的な学習の時間の SDGs の学習における、生徒に問題意識を持たせるための有益な情報源の提供、および指導する教師が持つべきコンピテンシーについて考察した。生徒が研究テーマをたてる際に「世界と日本の SDGs の達成度」を認識した上で検討することは一つの効果的方法である。また、ProfESus.eu が作成した「サステナビリティ・コンピテンシー」は、学習計画を立てる際の意味深い指針となろう。

<引用文献・ホームページ>

- 1) 滋野哲秀. (2019). 「総合的な学習の時間」から「総合的な探究の時間」へ：SSH の知見を高等学校のカリキュラム改革にどう生かすか. 龍谷紀要, 41 (1), 75-86.
- 2) 小川 総. (2019). 探究学習としての総合的な学習の実践報告-池田校舎 2017 年度『総合 I』の実践報告-. 大阪教育大学附属高等学校池田校舎 研究紀要 第 51 集, 43-51.
- 3) 梶木尚美. (2019). 総合的な学習の時間における TOK 思考法の導入-探求プロセスとクリティカル思考-. 大阪教育大学附属高等学校池田校舎 研究紀要 第 51 集, 21-33.
- 4) Bertelsmann Stiftung and Sustainable Development Solutions Network. (June 2019). Sustainable Development Report 2019.
<https://www.sdgindex.org> (2020 年 1 月 10 日にアクセス)
- 5) ProfESus.eu. (2019). Module3 Teaching for Sustainability.
<https://profesus.eu/course/module-3/> (2020 年 1 月 10 日にアクセス)

(本学 家庭経営学・環境教育研究室)